

カルシウム欠乏症の予防に

アグリメイト®

液状カルシウム肥料

特殊肥料 熊本県第7-6号



有機酸キレートカルシウム増量による
植物体内での移行性強化

使いやすい **液状** タイプ
カルシウム(CaO)含有率 **13%**

業界初



株式会社 ニッソーグリーン

アグリメイト®

成分 カルシウム (CaOとして13%)
(内 有機酸カルシウム：6%、塩化カルシウム：7%)
性状 淡褐色液体、PH：6.1 (500倍希釈液)、比重：1.24

特長

- 本剤には、有機酸キレートカルシウム（グルコン酸カルシウム、乳酸カルシウム、酢酸カルシウム）と塩化カルシウムが約半分ずつ含まれています。
- 散布時に本剤を希釈すると、多くのカルシウムは有機酸キレートカルシウムになります。
- 従って、本剤を葉面散布すると、多くのカルシウムは有機酸キレートカルシウムとして植物体内へ吸収されます。
- 有機酸キレートカルシウムは、りん酸イオンと結合しないため植物全体で吸収した多くのカルシウムは生長点へスムーズに移行することができます。
- カルシウムの補給により、細胞分裂時の細胞壁の形成が順調に行われ、新葉、新根、果実の生長が活発となります。また、細胞自体が強化されるので、品質、日持ちが向上します。
- 窒素成分を含まないので、生殖生長期にも安心して使用することができます。
- 希釈しやすい液状タイプです。

液状
カルシウム肥料
アグリメイト®



カルシウム欠乏症について

カルシウムは植物組織中の細胞壁の形成に不可欠で、また細胞と細胞をつなげているペクチン酸と結合して組織を強化するのに役立っています。

カルシウムが欠乏すると、細胞壁が形成されず、細胞の増殖が起こらないため、細胞の崩壊、壊死を生じます。

特に、細胞分裂の活発な新根、新葉、果実に発現しやすいとされています。カルシウムは根の先端部分でしか吸収

されず、吸収されたカルシウムは植物体内を移動しにくく、また、古い組織からのカルシウムの再転流、補給はほとんどありません。一方、カルシウム欠乏により壊死した細胞は回復しません。

したがって、カルシウム欠乏症の出やすい作物は、予防的に早い時期から生長部位を中心にアグリメイトを葉面散布しカルシウムが不足しないように常に補給する必要があります。

使用方法

対象作物名	カルシウム欠乏症、肥効または機能効果	希釈倍数(倍)	散布時期・回数	対象作物名	カルシウム欠乏症、肥効または機能効果	希釈倍数(倍)	散布時期・回数
カンキツ類	果皮強化、水腐れ軽減、裂果軽減、浮皮軽減、新梢充実	500 1000	①新梢伸長期から10日間隔で3回散布	びわ	レッ果症の予防、そばかす症の予防	500 600	幼果期から10~14日間隔で3回散布
			②養分転換期から10日間隔で3回散布	トマト ピーマン	尻腐れ果・新葉黄化の予防		各花房の開花初期ごとに、花房、新葉、生長点によくかかるように散布
			③着色始めから10日間隔で3回散布	白菜 キャベツ レタス	芯腐れ症・縁腐れ症の予防		定植活動後から結球始めまでに新葉、結球部によくかかるように3~4回散布
りんご	ビターピットの予防、コルクスポットの予防、油上がり軽減	500 1000	①6月上旬から7~10日間隔で3回散布 ②8月下旬から7~10日間隔で3回散布	たまねぎ	芯腐れ症の予防	500 1000	倒伏期までに7~10日間隔で3~4回散布
なし	みつ症(水浸果)軽減、ていあ部の亀裂(尻割れ果)軽減、コルクスポット・石ナシ果予防、ユズ肌症軽減、新梢の充実		①満開10~14日後から10日間隔で3~4回散布 ②果実肥大始めから3~4回散布 ③新高は8月下旬に更に1回散布する	いちご	チップバーンの予防、果実硬度の向上		定植後、新葉展開期及び各花房の開花初期ごとに3~4回散布
ぶどう	新葉・新梢の充実、新葉葉緑の葉焼け症軽減		新梢伸長期から10~14日間隔で3回散布	ばれいしょ	生育増進、倒伏防止、イモの肥大、品質向上(デンプン含有の増加)		開花期を中心に7~10日間隔で3回散布
かき	うるみ果(汚染果)の軽減	500 1000	①新梢伸長期から10日間隔で3回散布 ②幼果期から1ヶ月間隔で2~3回散布	さつまいも	つるぼけ防止、品質向上	500 1000	6~7月に2~3回散布
おうとう	うるみ果の軽減		落花10日後より10日間隔で3回散布	セルリー	芯腐れ症の予防		生育期に3~4回散布
				しゅんぎく	芯枯れ症の予防		生育期に3~4回散布
				きざよう トルコギキョウ	葉先枯れ症の予防		生育期に3~4回散布

その他のカルシウム欠乏症

- メロン(発酵果、変形果)
- はなやさい(新葉の先枯れ症)
- てんさい(芯焼け症)
- すいか(変形果)
- だいこん・かぶ(芯ぐされ、葉縁の黄化)
- チューリップ(首折れ曲り)
- なす(葉縁の黄化、がく割れ果)
- サトイモ(芽つぶれ症)
- もも(みつ症)
- きゅうり(落下傘葉、クビレ果、葉縁の黄化)
- そらまめ(種子腐敗)

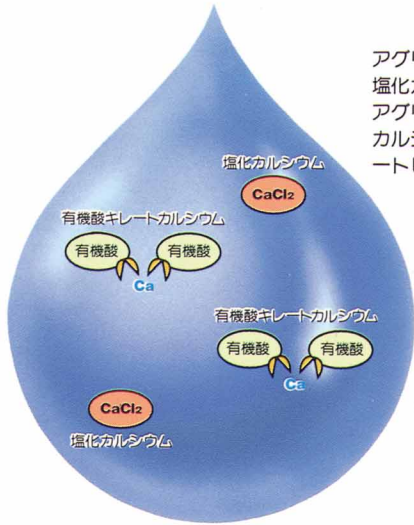


注意事項

- ①使用前にはラベルや説明書をよく読んでください。
- ②ラベルや説明書の記載以外には使用しないでください。
- ③本剤は小児の手の届くところには置かないでください。
- ④酸性の液体などで皮膚に付着しないように注意し、万一付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
- ⑤酸性の液体などで眼に入らないように注意し、万一眼に入った場合は直ちに15分以上洗眼し、医師の手当てを受けてください。
- ⑥誤飲した時は多量の水を飲ませ吐かせ、直ちに医師の手当てを受けてください。
- ⑦夏の日中を避け、朝夕の涼しい時に散布してください。
- ⑧農薬を混用する場合は本剤を希釈してから農薬を添加してください。
- ⑨本剤には展着剤は含まれておりません。
- ⑩カルシウム欠乏症が発見した細胞は回復しませんので、手遅れにならないように早めに散布してください。
- ⑪欠乏症が出やすい果実、新葉、生長点、結球部によくかかるように十分量散布してください。
- ⑫「石灰硫黄合剤」と混合すると、有毒ガスが発生する恐れがあり、危険ですから混用は行わないこと。
- ⑬密栓し、直射日光を避け、冷涼なところに保管してください。

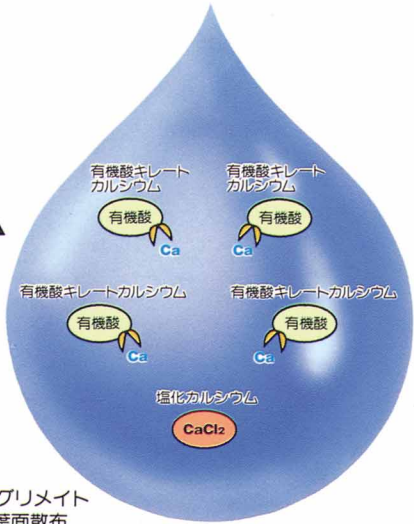
アグリメイトの優れた効果の秘密

アグリメイト製剤中



アグリメイト製剤中には、有機酸キレートカルシウムと塩化カルシウムが約半分ずつ含まれています。アグリメイト製剤が強酸性であるため、有機酸キレートカルシウムは、2つの有機酸で1つのカルシウムをキレートしています。(カニのハサミでつかまえている)

希釈

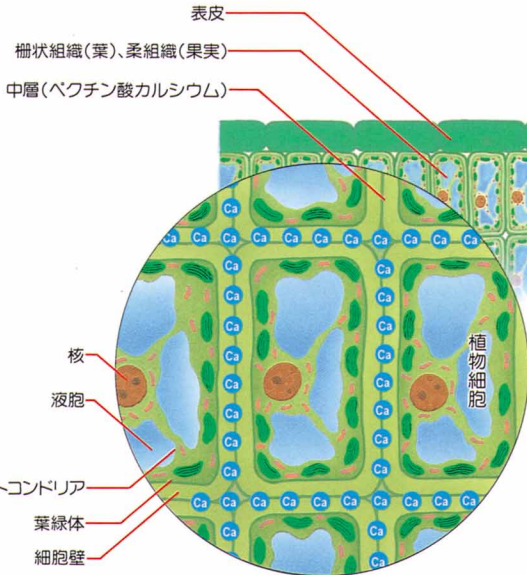


アグリメイト希釈液中

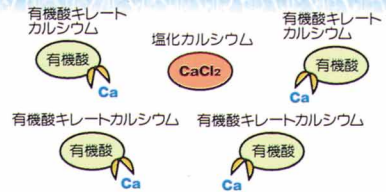
アグリメイトを希釈するとpHが中性に近づくため、有機酸のキレート力が強まり、1つの有機酸で1つのカルシウムをキレートする構造に変化します。そこで余った有機酸は塩化カルシウムのカルシウムをキレートするため、多くのカルシウムは有機酸キレートカルシウムとなります。(キレート結合はイオン結合より強い)

アグリメイト

葉面散布



カルシウムは新葉・新根・幼果の生長点での細胞分裂時の細胞壁の形成に不可欠です。また、細胞を強化します。



アグリメイトは多くのカルシウムが、有機酸キレートカルシウムとして植物体内に吸収されます。有機酸キレートカルシウムは、りん酸イオンと結合しないため、移行することができます。従って、アグリメイトは多くのカルシウムを植物全体から生長点へスムーズに移行させることができます。塩化カルシウム、硝酸カルシウム等は、植物体内に吸収後りん酸イオンと結合し、不溶性のりん酸カルシウムとなるため移行できません。



株式会社 ニッソーグリーン

<http://www.ns-green.com/>

本社 東京都台東区上野3-1-2 (秋葉原新高第一生命ビル5F)
〒110-0005 TEL. 03-5816-4351 FAX. 03-5816-4355